

2018年1月1日以降の実績

1号機

現時点での特記事項なし

2号機

- ・2号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)については、使用済燃料プール冷却浄化系(以下、「FPC系」という。)にて冷却しているが、2号機SFP循環冷却設備の信頼度向上対策工事において、同設備の二次系に近接する作業があるため、安全確保の観点から、1月16日午前6時33分に一次系の運転を継続した状態で、二次系を停止(1月22日まで停止予定)。停止時のSFP水温度は29.2。
- ・作業実績(1月16日午前6時33分～1月20日午後0時19分)。起動後のSFP水温度は31.9。

3号機

現時点での特記事項なし

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

- ・5号機SFPについては、RHR系非常時熱負荷モードにて冷却しているが、RHR A系の計装品点検後の確認運転のため、SFP冷却停止を伴う作業を行う。
スケジュールおよび実績は以下の通り。
 - 1月19日午前9時58分～午後1時50分
 - ・RHR系非常時熱負荷モードによるSFP冷却停止
 - ・起動後のSFP水温度17.4(停止時17.0)

6号機

- ・6号機SFPについては、FPC系にて冷却しているが、以下の通り、SFP冷却停止を伴う作業を行う。
FPC系を冷却している補助海水系の機器点検を行う(1月17日～2月2日)ため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(以下「RHR系」という。)による冷却へ切り替えを行い、補助海水系の機器点検後は、SFP冷却をRHR系よりFPC系による冷却に戻す。

SFP冷却中のRHR系の機器点検を行う(1月22日)ため、RHRを停止する。(RHR系の機器点検後は、RHR系を再起動する。)

スケジュールおよび実績は以下の通り。

- 1月17日午前9時41分～午前10時37分
 - ・FPC系からRHR系非常時熱負荷モードに切り替え
 - ・SFP水温度15.8(停止時15.1)
 - 2月2日午前10時～午後4時(約6時間停止)
 - ・RHR系非常時熱負荷モードからFPC系に切り替え
 - 1月22日午前9時44分～午前11時36分
 - ・RHR系非常時熱負荷モード関連機器点検による冷却停止
 - ・SFP水温度19.4(停止時19.2)
- 冷却停止中のSFP水温度上昇は約1.3と評価(温度上昇率:約0.204/h)

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4、H6エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

- ・1月19日午前8時28分に「RO設備漏れ監視装置異常」警報が発生。
現場を確認したところ淡水化装置建屋内で、淡水化装置のRO膜洗浄用のタンクの空気抜き配管から漏れいしていることを確認。淡水化装置(RO-3)を同日午前8時50分に停止。タンクからの漏れいは、タンクにつながっている弁を閉操作し停止していること、ならびに堰内に留まっていることを確認。
漏れい範囲は、10m×15m×1mmであり、漏れいした水の量は、約150リットルと推定。漏れいした水はRO膜の洗浄水で、漏れいした水の放射能分析結果は以下のとおり。
 - ・セシウム-134:3.2×10²Bq/l
 - ・セシウム-137:2.7×10³Bq/l

・全ベータ :3.1×10⁴Bq/l

漏水した水は、同日午後1時20分に回収作業を完了。

今回の漏えいについては、当該タンクに接続してある常時閉の弁が開の状態であったため、本来流入しない RO 濃縮水受タンクへ供給される水がタンク内に逆流、これにより、タンクは満水状態となり、空気抜き配管より水が漏えい。

なお、当該弁を本来の閉状態に戻したことにより、設備は通常の系統状態に復帰。準備が整い次第、淡水化装置を再起動予定。

[RO濃縮水処理設備]

現時点での特記事項なし

[RO濃縮廃液タンク水処理設備]

現時点での特記事項なし

[その他]

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載

<排水実績>

- ・一時貯水タンク G 1月2日午前10時7分～午後1時28分。排水量 500m³
- ・一時貯水タンク A 1月3日午前9時48分～午後0時59分。排水量 473m³
- ・一時貯水タンク B 1月4日午前10時38分～午後1時50分。排水量 478m³
- ・一時貯水タンク C 1月5日午前10時12分～午後1時18分。排水量 462m³
- ・一時貯水タンク D 1月6日午前10時5分～午後1時17分。排水量 475m³
- ・一時貯水タンク E 1月7日午前9時29分～午後0時32分。排水量 453m³
- ・一時貯水タンク F 1月8日午前10時～午後1時。排水量 446m³
- ・一時貯水タンク G 1月10日午前10時5分～午後0時53分。排水量 416m³
- ・一時貯水タンク A 1月12日午前11時14分～午後4時29分。排水量 782m³
- ・一時貯水タンク C 1月14日午前10時19分～午後2時5分。排水量 562m³
- ・一時貯水タンク E 1月16日午前10時6分～午後2時6分。排水量 595 m³
- ・一時貯水タンク F 1月17日午前10時～午後0時58分。排水量 440 m³
- ・一時貯水タンク G 1月18日午前11時4分～午後1時42分。排水量 391m³
- ・一時貯水タンク A 1月19日午前10時9分～午後0時28分。排水量 342m³
- ・一時貯水タンク B 1月20日午前10時25分～午後0時52分。排水量 362m³
- ・一時貯水タンク C 1月21日午前9時49分～午前11時56分。排水量 313m³
- ・一時貯水タンク D 1月22日午前10時4分～午後0時11分。排水量 316m³
- ・一時貯水タンク E 1月23日午前10時1分～午後0時6分。排水量 307m³
- ・一時貯水タンク F 1月24日午前9時56分～午前11時50分。排水量 282m³
- ・一時貯水タンク G 1月25日午後0時4分～。

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ1 1月4日午前10時3分～午後6時4分。排水量 1,999m³
- ・一時貯留タンクグループ3 1月12日午前10時10分～午後5時59分。排水量 1,979m³。
- ・一時貯留タンクグループ2 1月18日午前10時7分～午後5時46分。排水量 1,941m³。
- ・一時貯留タンクグループ1 1月25日午前10時3分～。

<特記事項>

現時点での特記事項なし

[1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果]

<特記事項>

現時点での特記事項なし

[1号機放水路のサンプリング結果]

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

[陸側遮水壁]

現時点での特記事項なし

[雑固体廃棄物焼却設備]

現時点での特記事項なし

[その他設備の不具合・トラブル]

・1月8日午前11時46分頃、サブドレン前処理フィルタ1Aより水抜き中に、3Aドレンヘッダホース接続部より水が漏れていることを当社社員が発見。状況は以下のとおり。

- ・発見時刻 午前11時46分頃
- ・発生場所(設備名称) サブドレン浄化建屋
- ・漏えい箇所 サブドレン前処理フィルタ3Aドレンヘッダホース接続部
- ・発見者 当社社員
- ・漏えい範囲 約0.3m×0.15m×深さ2mm
- ・拡大防止処置 水抜きを中止した
- ・漏えい継続の有無 停止中
- ・外部への影響 漏えいした水は堰内に留まっている

漏えいした水のスマヤ測定及び表面線量率測定を行った結果、サブドレン浄化建屋内のバックグランドと同等であることを確認。また、漏えいした水について、拭き取り処理を実施する。

[けが人・体調不良者等]

現時点での特記事項なし

[その他]

現時点での特記事項なし